

田原の文化財ガイド VI

# 渡辺 崋山

わたなべかざん



◆渡辺華山年譜

和暦(西暦)	数え年	できごと
寛政5年(1793)	1	9月16日、江戸麹町田原藩上屋敷に渡辺家長男として生まれる。
寛政7年(1795)	3	妹茂登生まれる。
寛政9年(1797)	5	この年、軽い痘瘡にかかる。
寛政12年(1800)	8	若君亀吉のお伽役になる。妹まき生まれる。
享和元年(1801)	9	最初の絵の師、平山文鏡(田原藩士)亡くなる。
享和3年(1803)	11	弟熊次郎生まれる。
文化元年(1804)	12	日本橋で備前池田侯の若君の行列を横切っしまい、乱暴をうけ発奮する。
文化2年(1805)	13	鷹見星卓に入門し、儒学を学ぶ。弟喜平次生まれる。
文化3年(1806)	14	若君元吉(後の康和)のお伽役になる。
文化4年(1807)	15	弟助右エ門生まれる。
文化5年(1808)	16	絵師白川芝山に入門する。星卓より華山の号を受ける。藩主康友に従って田原に滞在する。
文化6年(1809)	17	金子金陵に絵を学ぶ。金陵の紹介により谷文晁に絵を学ぶ。
文化7年(1810)	18	田原に藩校成章館創立。妹つぎ生まれる。
文化8年(1811)	19	佐藤一斎から儒学を学ぶ。
文化10年(1813)	21	妹つぎ亡くなる。
文化11年(1814)	22	納戸役になる。絵事甲乙会を結成し、画名世に知られる。
文化13年(1816)	24	弟五郎生まれる。
文化14年(1817)	25	父定通、江戸詰の家老となる。
文政元年(1818)	26	正月、藩政改革の意見を発表。長崎遊学を希望したが父の反対のため断念する。「一掃百態図」を描く。藩主康友に従って田原に滞在する。
文政2年(1819)	27	江戸日本橋百川楼で書画会を開く。
文政6年(1823)	31	和田たかと結婚する。「心の掟」を定める。
文政7年(1824)	32	7月、家督を継ぐ。父定通亡くなる。父の肖像画である「渡辺巴洲像画稿」を描く。
文政8年(1825)	33	この年から松崎慊堂に儒学を学ぶ。「佐藤一斎像」「四州真景図」を描く。
文政9年(1826)	34	江戸宿舎にてオランダ使節ジュールと対談。長女可津生まれる。この頃から画号「華山」を「華山」と改める。「松崎慊堂像(焼失)」を描く。
文政10年(1827)	35	10月、藩主の弟である三宅友信に従い田原に来る。
文政11年(1828)	36	「日省課目」を定め修養に努める。側用人となり、友信の付き人を兼ねる。
文政12年(1829)	37	三宅家家譜編集を命ぜられる。弟喜平次亡くなる。
天保元年(1830)	38	三宅家家譜調査のため埼玉県尻尾の三宅氏遺跡を訪れ、のちに「訪舘録」を書く。弟熊次郎亡くなる。
天保2年(1831)	39	江戸藩邸文武稽古掛指南世話役となる。妹まき亡くなる。9月から門弟高木梧庵を伴い厚木を旅し「游相日記」を書き、10月、桐生、足利、飯塚地方に旅し「毛武遊記」を書く。
天保3年(1832)	40	家老となる。紀州藩破船流木掠取事件がおこる。助郷役免除のための行動をする。長男立生まれる。
天保4年(1833)	41	東北で飢饉がおこる(天保の大飢饉 ~天保10年ごろまで) 1月、家譜編集などのため田原に来て、「客参録」「参海雑志」を書く。
天保5年(1834)	42	幕命の新田干拓中止の願書を上申。農学者大蔵永常を田原藩に招く。田原藩、給与改制格高分合制を実施する。
天保6年(1835)	43	報民倉が建てられる。二男諧(後の小華)生まれる。
天保7年(1836)	44	田原地方に天保の大飢饉がおこる。
天保8年(1837)	45	モリソン号事件がおこる。真木定前を田原に遣し、飢饉を救う。年末、無人島渡航を藩主に願うが許されず。「市河米庵像」「鷹見泉石像」を描く。弟五郎亡くなる。
天保9年(1838)	46	年初、「退役願書稿」を書く。蔵書画幅を藩主に献上する。「鯀舌或問」「慎機論」を著す。儒者の伊藤鳳山を田原藩に招く。「孔子像」「芸妓図」を描く。
天保10年(1839)	47	江戸湾測量で伊豆葦山の代官江川坦庵に、人材・器具を援助する。5月14日、蚕社の獄により北町奉行所の牢屋に入る。12月18日、田原塾居の申渡しを受ける。
天保11年(1840)	48	1月20日、田原着。2月12日、池ノ原屋敷に塾居。「異魚図」を描く。
天保12年(1841)	49	「乳狗図」「于公高門図」「千山万水図」「黄梁一炊図」を描く。10月11日、自刃する。



田原藩上屋敷跡と三宅坂

# 渡辺華山の生い立ち

渡辺華山は江戸時代後期、寛政5(1793)年に、田原藩の江戸上屋敷(現在の最高裁判所の近く)で渡辺家長男として生まれました。渡辺家は江戸詰めで父親の渡辺定通は29歳、母親の栄は22歳でした。定通は15人扶持を受けましたが病がちで高価な薬が必要なうえ、子どもが8人もおり、加えて田原藩が財政難で家臣の減俸も行っていたため、家はとても貧乏でした。

渡辺家の先祖は元越後家に仕えた田代氏で、家禄八百石を受けていた貞重が主君と近親であった三宅土佐守康勝に召し出され微禄となり、それを恥じて「せめて数百石になるまでは」と母方の名字である渡辺を名乗ったと伝えられています。



渡辺華山の生い立ち

◆ 立志

華山が12歳の頃、日本橋のあたりで備前(岡山県)池田侯の若君の大名行列を横切ってしまう、人々がいる中でその家来達にぶたれたり、たたかれたりしました。この行列の駕籠の中には華山と同じくらいの年の若君が乗っており、「生まれが違うとはいえ同じ人間であるのに、何故違うのか」と華山はくやしがりしました。そして、今よりも勉強し学問で身を立て、位の高い人々と対等な立場になれるようにと志を立てました。



高柳守次 立志の像

昭和3(1928)年に作られました。この時の華山の志を立てた様子を表した像です。田原市博物館に展示されています。

◆ 板橋の別れ



渡辺華山紙芝居より 板橋の別れ

渡辺家は大変貧乏で、華山には兄弟が多かったため、弟妹達を養っていけず奉公に出したり、寺に出家させたりしていました。

華山が14歳の時、幼い弟(熊次郎)を寺に送り出すために板橋まで連れていった時のことです。雪が降りしきる道ばたで、華山は見知らぬ男に弟を引き渡しました。弟は華山のほうを何度も振り向きながら連れていかれました。貧しさ故に弟と別れなければならなかったこの出来事は、華山にとって忘れることのできない辛い思い出になりました。

◆ 心の掟

華山が31歳の時、自分の心に留め置く事として「心の掟」を書きました。そこには親への孝行、学問への精進・画道の追求などが書かれています。

この中には、華山が交友を深めるべき人があげられています。心の事を相談して、どんなことも隠さずに話すようにする師匠・友人として佐藤一斎(儒学者)、本多思斎(儒学者)、見聞を広め書籍を貸し借りする友人として屋代輪池(蔵書家)、北静庵(学者)、曲亭馬琴(物語作家)、書画家としては谷文晁(画家)、市河米庵(書家)、檜山坦斎(書家)、立原杏所(画家)らの名前があげられています。これらの人々は当時それぞれの分野で活躍している人たちが多く、華山の交友の広さがうかがえます。

田原藩士としての華山

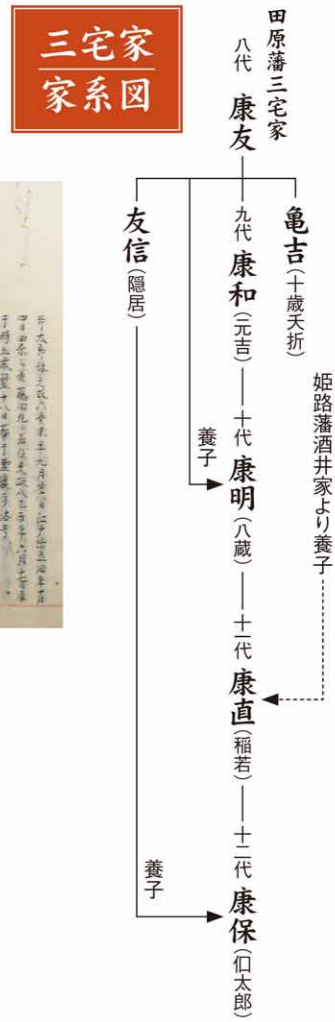
◆ 三宅家の血統を守る

文政10(1827)年に田原藩10代藩主の康明が亡くなりました。康明には異母弟の友信がいましたが、藩の重役たちのなかには裕福な姫路藩主の息子を養子に迎えて藩主とし、その持参金で藩の財政難を乗り切ろうという動きがありました。華山は自分の主君である三宅家の血統が絶えると反対し、友信を次の藩主にするよう求めました。結局、姫路藩主の息子である康直が第11代目藩主になりましたが、華山たちは三宅家の血統を断やまいと、将来康直の娘と友信の長男を結婚させ、生まれた男子が跡を継ぐように求め、康直に承諾させました。その後、嘉永3(1850)年に友信の子である康保が12代目藩主になり、三宅家の血統は残り続ける事となりました。

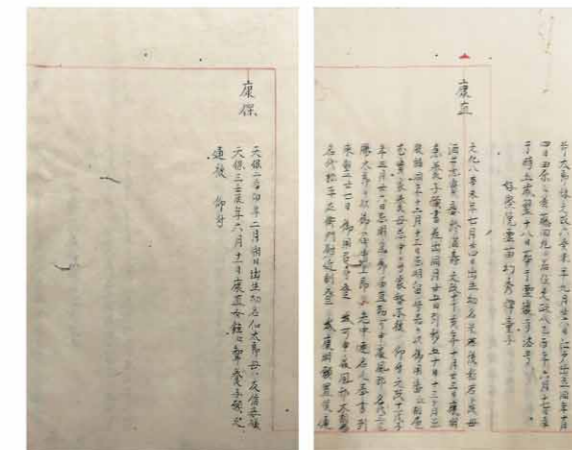
このように自分の主君である三宅家の血統を惜しんだ華山の行動に、武士として忠孝の精神を大切にする華山の一面が見られます。



細井文次郎 三宅友信像  
昭和11(1936)年 巴江神社蔵



三宅伯太郎謹志



三宅氏御系譜(部分) 江戸時代後期

重要文化財  
渡辺華山 自筆手本「忠孝」  
天保年間

この書は田原藩主の世子三宅伯太郎(のちの12代目藩主康保)の傅役として書初手本として書いたものです。田原中部小学校で以前は志の手本として、かけられていました。

### ◆ 助郷役の免除

天保6(1835)年、田原藩の領地の村々に幕府より東海道にある二川宿と白須賀宿の助郷役が発せられました。助郷役というのは、宿場で必要になった人足や馬を補充するために周辺の村々から集める制度で、領民にとっては大変な負担となるものでした。

華山は田原藩領が太平洋側に面し、外国船への警戒が必要であるため、海岸防衛の見張り等に人が必要などの理由

をあげ、助郷役を免除する願書を書きました。この働きがけで結果として助郷役は免除となりました。領民は華山に大変感謝し米25俵を贈りましたが、華山は「職務を全うしただけだ」と受け取りませんでした。また天保9(1838)年に助郷役の免除の感謝として再び30両を贈られましたが、華山はそのお金を村役人に預けたうえで村のために使うようにと取り計らい、自身は受け取りませんでした。



二川宿の助郷村分布図  
(●享保10年 ▲天保4年 △天保7年指定)  
この分布図から田原藩に助郷役が出ていないことが分かります。  
豊橋市二川宿本陣資料館  
「豊橋市二川宿本陣資料館-展示案内-」  
平成4(1992)年  
二川宿助郷変遷をもとに作成

### ◆ 田原藩の産業改革

華山は田原藩を豊かにするために新たに産業を興したいと考えました。そこで江戸時代の三大農学者に数えられる大蔵永常を招きました。永常は少年時代に飢饉を目の当たりにしたことから、農業技術の向上や普及に努め、自分の足で各地を調査し本にまとめました。永常は当時の最新の農業技術を持っていた人物でした。そんな永常が田原藩の新たな産業として考案したのは、サトウキビによる砂糖づくり、樅の木の栽培とろうそくづくり、楮による製紙、土人形づくりなどでした。

しかし蛮社の獄で華山が捕らえられ、田原藩も永常の新たな産業に力を入れる金銭的な余裕がなく、こうした取り組みが根付く前に、永常は藩を離れることになりました。唯一、産業として残ったのは土人形で、明治時代中頃まで続いたと言われています。

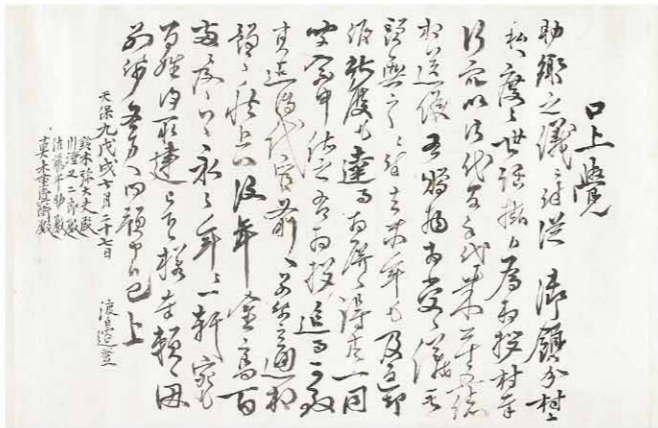


大蔵永常 寛益国産考 安政6(1859)年

永常が晩年に集大成としてまとめた本です。この部分は土人形の作り方が書かれています。



幕末の田原土人形の型



御預り申候金子之事  
一、金三拾両也 但利足割之定  
右は元利積立置、追々御領分一助之筋にも御取付被成度御趣意二付、私共御役前江御預り申候処、実正二御座候。則当度ノ六月より向々江貸附置御入用之節取立元利無相違返上可仕候、為後日仍而証書如件  
天保九戊戌年六月日 日高三左工門 塩谷武左工門  
渡辺登殿

口上覚  
助郷之儀二付 從御領分村々私へ度々世話掛候為相抄 村奉行衆以御代官手代米二十五俵相送候 右贈物相受候儀毛頭無之二付 去未年も及返却候 此度も達而相屏得共一同開入不申、依之右相抄追而可致其追御代官前へ別紙之通相預候 然上ハ後年金高百兩二及候ハ、永々年々一軒宛も百姓御取建被下候様奉頼候 因別紙各方へ御預申候 已上  
天保九戊戌七月二十七日 渡辺登  
鈴木弥太夫殿  
川澄又二郎殿  
佐藤半助殿  
真木重郎兵衛殿

重要文化財 渡辺華山 助郷書類(部分) 天保9(1838)年  
助郷役の免除の謝金を村預けとした書類



大蔵永常 門田の栄(写本)  
渡辺華山画 天保6(1835)年

稲などの作物の生産量を増やす方法を、永常が分かりやすくまとめ、華山が挿絵を描いた農書が『門田の栄』です。この本は田原藩の領民に配られました。

### ◆紀州船荷物の掠取り事件の後始末

天保3(1832)年7月に紀伊国(現在の和歌山県)の船が難破し、田原藩内の太平洋側の浜に漂着しました。近くに住む領民たちは周りに散乱した船の貨物をこぞって拾い、自分のものにしたたり売りさばくという事件がおきました。荷物の持ち主は幕府に弁償するよう訴え、領民に多額の賠償金が課されました。崋山は紀伊藩や事件に関係する藩や幕府と交渉し、その結果、当初の要求よりも少ない賠償金額で荷物の持ち主と和解ができました。



渡辺崋山紙芝居より 紀州船難破

### ◆新田とするための埋め立てを阻止

この画像は表示できません

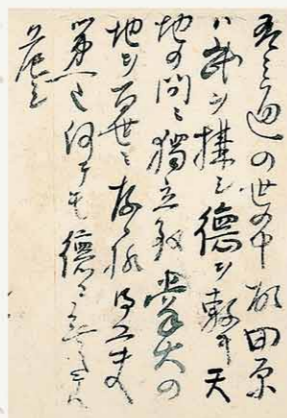
愛知県指定文化財 渡辺崋山 客参録(部分)  
個人蔵 天保4(1833)年

崋山が描いたスケッチです。幕府はここに描かれている田原湾一帯を埋め立てようとしていました。

天保4(1833)年、田原藩領内の現在の吉胡町や豊島町あたりの干潟を埋め立てて新田を開発したいという幕府の意向が田原藩に伝えられました。近隣の村からは水害の危険が高くなること、海産物が獲れなくなることを理由に反対の声があがり、田原から江戸の崋山へ幕府に働きかけ、新田開発を阻止するよう指令が下りました。そこで崋山はこれらの理由に合わせ、田原城の守りが危うくなることを幕府の有力者たちに訴え、計画の中止を求めました。これとは別に領民たちが幕府の役人に中止を願い出たこともあり、新田開発の計画はなくなりました。

### ◆時代を生き抜く藩政の心構えを説く

天保9(1838)年、崋山が国元の田原藩士3人にあてた手紙です。オランダからの海外情報を伝えながら「わが田原藩は異国の脅威に最新の備え、武士としての心構えを持ち、徳をもって藩政を行い、手のひら大のような小さな藩であっても、のちのちまで続くよう、工夫をすることが大事である。徳が無ければ藩は続かない」と説いています。



(前略) 田原  
八武ヲ構シ徳ヲ敷キ天  
地の間ニ独立致掌大の  
地ヲ百世ニ存候様、御工夫  
第一也何テモ徳ニ無之テハ  
危シ

田原御三人様宛書簡(部分)

### ◆崋山の教え

#### 【商人八訓】

崋山が親しい商人から依頼され、その心得として書いたものが「商人八訓」です。

現在も商売経営の心構えとして田原の商店にも飾られています。

#### 【八勿の訓戒】

天保8(1837)年に田原藩士の真木重郎兵衛定前が、藩御用金調達のため大阪に行くことになり、商人と交渉する時の心得を手紙にしたためたものです。

日々の生活の心構えとして現在の私たちにも学ぶべきことが多い内容となっています。

#### 商人八訓

- 一、先づ朝は召使より早く起きよ
- 一、十兩より百文の客を大切にせよ
- 一、買手が気に入らなれば返しに来たらば売るときより丁寧なせよ
- 一、繁昌するに従って益々儉約せよ
- 一、小遣は一文よりしるせ
- 一、開店の時を忘るな
- 一、同商売が近所に出来たら懸念を厚くし互に励めよ
- 一、出店を開いたら三ヶ年は食料を送れ

#### 八勿の訓戒

- 一、面語の情に常を忘る勿れ  
人と面談しているとき、調子につて平常の心を忘れるな
- 一、眼前の操廻しに百年の計を忘る勿れ  
目先にとらわれて、永年先の計画を忘れるな
- 一、前面の功を期して後面の費を忘る勿れ  
目先、さし当りの成功を考えて後日に多くの出費が出ることを忘れるな
- 一、大功は緩にあり機会は急にありといふ事を忘る勿れ  
大きな(成功)功績はゆっくり積み重ねて出来るのであるがチャンスは素早く捕えることを忘れるな
- 一、面は冷なるを欲し背は暖を欲すると云を忘る勿れ  
表面は冷静で顔に出してはならない。内心は温情であることを忘れるな
- 一、拳動を慎み其恒を見らるる勿れ  
態度行動を慎重にして心の中を見すかされるな
- 一、人を欺んとする者は人に欺むかる不欺は即不欺といふ事を忘る勿れ  
人をだまそうとする者は人にだまされる。人をだまさないのは自分自身をだまさないということを忘れるな
- 一、基立て物従ふ基は心の実といふ事を忘る勿れ  
基本がしっかりしていると物が従ってくる。基というのは心の真実(真心)であるということを忘れるな

# 天保の大飢饉

## ◆報民倉の建設

天保4(1833)年から天保10(1839)年頃まで、大雨や冷害などのため大飢饉がおり、日本国中で多くの餓死者がでました。これが江戸三大飢饉の1つである、“天保の大飢饉”です。この飢饉で、食料を求めて百姓一揆や打ちこわしが各地でおこり、天保8(1837)年の大塩平八郎の乱の原因にもなりました。

華山はすでに天保4年には、田原にも飢饉が来ることを予測し、藩主に伺い警告書を発しています。天保6(1835)年には田原藩は華山の発案とも言われる、生活に困っている人を助けるために米などの食料を備える倉である「報民倉」を建設しました。報民倉の建設には藩をあげての大きな事業で、華山をはじめ、藩内の庄屋や藩士たちが報民倉に食料を入れ、藩士の子どもたちまでもが、食料を運ぶのを手伝いました。



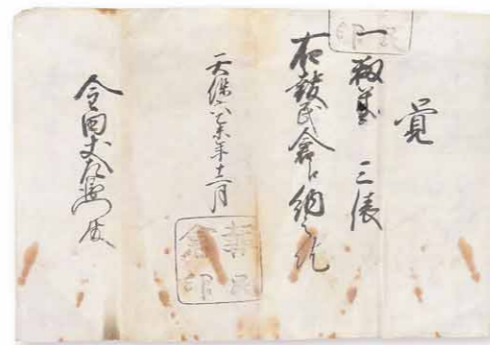
天保の大飢饉の様子 華山会「偉人物語 渡辺華山」令和3(2021)年より  
(小澤耕一原図を加筆し着色)



報民倉建設の褒賞賜盃



報民倉の鍵



報民倉献米受領証



重要文化財 報民倉額 天保6(1835)年  
当時の藩主である康直の筆と言われる報民倉に実際に掲げられていた額です。

## ◆幕府からの表彰

天保7(1836)年から8年にかけて田原も飢饉となりました。この時、華山は命に関わるほどの大病を患っていたため、用人\*の真木定前を飢饉救済の総指揮に命じるとともに藩医の鈴木春山には、領民への粥の施しの指示をしました。また、報民倉を開け、米などが配られました。華山の的確な指示や報民倉によって、田原藩では一人の餓死者・流亡者\*も出ませんでした。

天保9(1838)年幕府は田原藩を高く評価し、全国で唯一表彰しました。

\*用人：家老の次の位で、藩の実務・会計等を担っていた役職  
\*流亡者：住んでいた所を離れ、定住することなくさすらい歩く人



渡辺華山紙芝居より 報民倉



褒状文書  
天保9(1838)年 巴江神社蔵

幕府からの褒状です。内容は、「天保の飢饉に見舞われた時に窮民をよく救い、手当てしたことを将軍がほめていたので申し聞かせる」というものです。



田原学校(現在の田原中部小学校)の仮校舎とされていた報民倉 明治28(1895)年ごろ

# 華山の西洋事情研究

田原は太平洋に面しているため海から攻め込まれやすく、華山は天保3(1832)年に家老となり、海防掛りを兼務したことにより外国事情を研究しはじめました。隠居の三宅友信に蘭学(オランダの学問)を勧め、高野長英、小関三英、鈴木春山らを雇い翻訳させました。また蘭学者である幡崎鼎や江川担庵、鷹見泉石ら洋学に興味を持つ人物と交わり、来航したオランダ人の商館長から西洋の事情を学び、外国事情に精通する一人となりました。

西洋事業を研究することによって、鎖国中の日本が、世界の水準より軍事力・兵力などが遅れているのが分かり、華山は危機感をもちます。こうしたことから、華山と同じく日本の海防に危機感を抱いている人などが華山の元に集まりました。

重要文化財 椿椿山 高野長英像(部分)  
天保年間 高野長英記念館蔵

高野長英は養父が杉田玄白から蘭方医学(オランダの医学)を教わっていたため、幼い時より蘭学に触れる機会が多かったこともあり、長崎でシーボルトの鳴滝塾に通って医学・蘭学を学び、蘭方医となりました。当時、国内でオランダ語によく通じた人物として知られていました。

この画像は表示できません

この画像は表示できません

三宅友信 蘭書目録(部分) 巴江神社蔵

友信が収集した蘭書名が載っています。書名の内88冊は兵学に関するものです。華山はこれらの蘭書に触れるため、友信の元へ通っていました。



華山が世界地図を広げている想像図

この画像は表示できません

山村才助 西洋雑記下(渡辺華山題箋 部分)  
江戸時代後期 国立国会図書館蔵

蛮社の獄で華山の屋敷が家宅捜索された際に押収された書籍の一つです。この本の他に121冊押収されました。

## 【コラム Column】

### ◆華山が西洋事情を著した本

この画像は表示できません

渡辺華山 西洋事情御答書(部分)  
天保9(1838)年 江川文庫蔵

華山が友人の江川担庵から問われたことに答えたものです。世界の文明は中国を除いて赤道に近いインドや中東で栄えたものの、現在は科学を重視するヨーロッパ諸国が優れた軍事力で世界のほとんどを自らの領土としていて、日本にとっても大敵であると書いています。

小笠原貢蔵 小笠原家文書  
華山表題 鸚鵡舌小記  
天保年間 酒川玲子氏蔵  
横浜開港資料館保管

オランダの医師であるニイマンが江戸を訪れた時に、華山とニイマンが問答した内容などが書かれたものが「駢舌小記」です。「鸚鵡舌小記」は小笠原貢蔵の誤記と考えられています。ここには「駢舌小記」の説明などが書かれています。

この画像は表示できません

この画像は表示できません

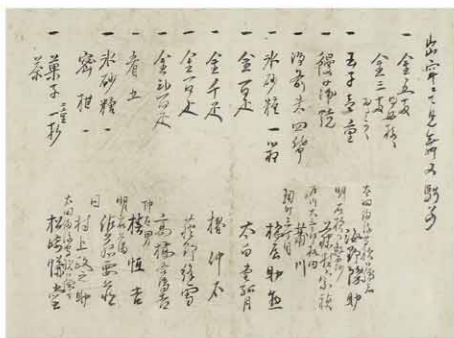
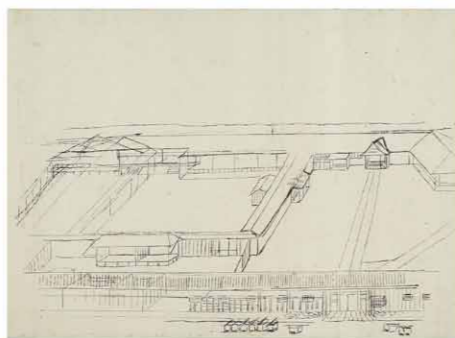
重要文化財 鷹見泉石関係資料 慎機論(写本 部分) 古河歴史博物館蔵

天保9(1838)年に幕府と薩摩藩が異国船を砲撃によって退去させた、モリソン号事件の対応を批判しています。内容は、「西洋の国はとてども発達してアメリカはヨーロッパより強く、西洋の国と関わらないのは日本だけであり、このまままでのように異国船を追い払ってしまえば国を滅ぼしかねない」として、「今それを幕府の大臣に訴えようとしても元々からひ弱な貴族の人々であるし、権力のある人に訴えても賄賂をもらって喜んでいるような人であるし、儒者に訴えても政治の改善を望めない。このまま、何もせずに諸外国が攻めてくるのを待っているしかできないのだろうか」というものです。華山は日本の将来を案じ、このままではいけないと危機感を抱いていました。この慎機論は華山がこの時の感情のままに書いたものであり、誰かに見せることを意図したものではありませんでした。

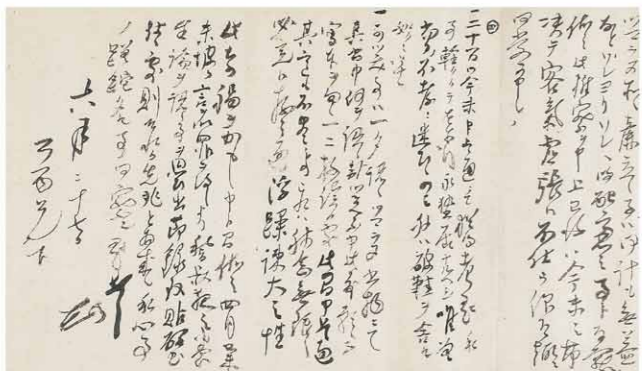
## ◆華山逮捕

華山を含めた蘭学の研究・情報交換をしている仲間を蛮学社中(西洋の学問を共有する仲間達という意味の略)と言いました。蘭学が蛮学社中の人々により広まるにつれ、儒学の朱子学のみ正当な学問とし他を認めない幕府にとって危険なものと判断されました。華山に天保9(1838)年に行われた江戸湾測量での恨みがあり、儒者の子でもある目付の鳥居耀蔵の企てで、天保10(1839)年5月に華山・高野長英らは、無人島渡航計画を企てた疑いで捕らえられました。このときの蘭学者を弾圧した事件が、「蛮社の獄」です。

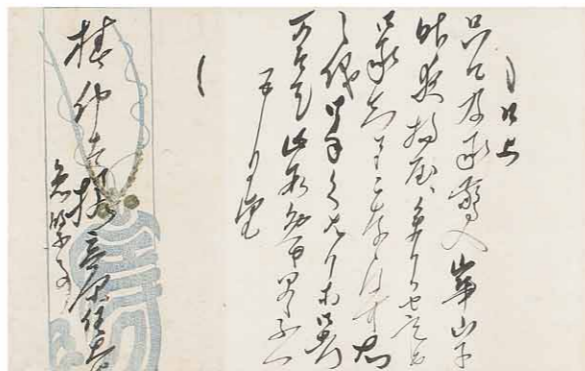
これによって10数名が捕らえられ、家宅捜索が行われました。華山の渡航の疑いは晴れたものの、机の底からみつけれられた「慎機論」が幕政批判に当たるとして重罪に問われました。



重要文化財  
渡辺華山  
獄廷素描及び記録(部分)  
天保10(1839)年  
華山が蛮社の獄で捕まった時の自分を思い出しつつ描いたものです。



重要文化財 渡辺華山 獄中書簡(部分) 天保10(1839)年  
華山が椿山に宛てた手紙です。慎機論について「一夜で認めつつまらない書物」であって、「何を認めたか覚えていない」こと、この慎機論で罪を問われるのは、「残念無限」といった内容が書かれています。

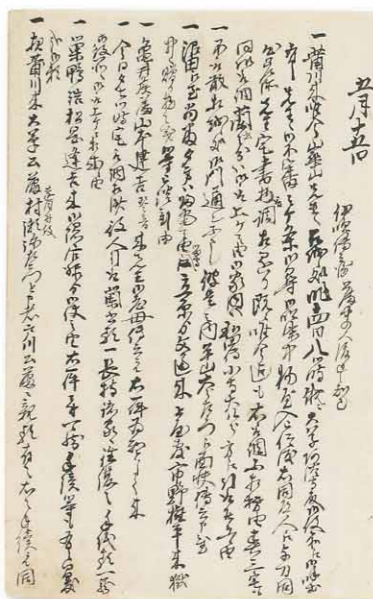


重要文化財 立原杏所 椿椿山宛書簡 天保10(1839)年  
蛮社の獄がおこった翌日の天保10年5月15日に華山の友人である水戸藩士立原杏所から椿椿山へ出された手紙です。華山が捕らえられたことをいち早く知らせたものです。

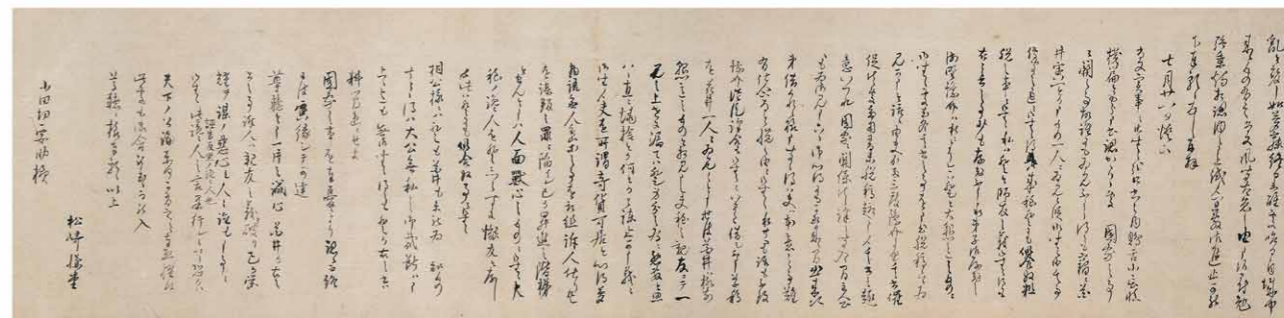
## ◆華山救出

華山を牢から救い出すために、様々な人が行動しました。弟子の椿椿山を中心に、小田莆川や山本栞谷、立原杏所、多胡逸斎らは、獄中の華山への差し入れ、華山を牢から出すための資金集め、他の人にも華山を救うための協力を求めました。また、藩主の康直や友信は水戸徳川家に使いを出し、華山の罪を許してもらおうと依頼しました。

華山の儒学の師、松崎慊堂(1771~1844)は華山が重罪になりそうだと聞くと、69歳の病身をおして2日間にわたって「赦免建白書」をかきました。このおかげで、華山は罪を減ぜられ、国元である田原藩での蟄居という軽いものとなりました。



重要文化財  
椿椿山  
麴町一件日録(部分)  
天保10(1839)年  
華山が逮捕された翌日から書かれた椿山の日記です。蛮社の獄の情報や華山を救うための行動が書かれています。



市指定文化財 松崎慊堂 赦免建白書写(部分) 天保10(1839)年  
松崎慊堂が当時の老中であつた水野忠邦の家臣・小田切要助に宛てたものの写しで、長さは280cmもあります。内容は、華山の人柄や仕事ぶりが優れており、「慎機論は人目にさらしたものでないのに処罰するのはいかがなものでしょうか」といった華山を弁護したものとなっています。



池ノ原屋敷のあった池ノ原幽居跡(市指定史跡)  
この場所で華山は家族と共に過ごすこととなりました。



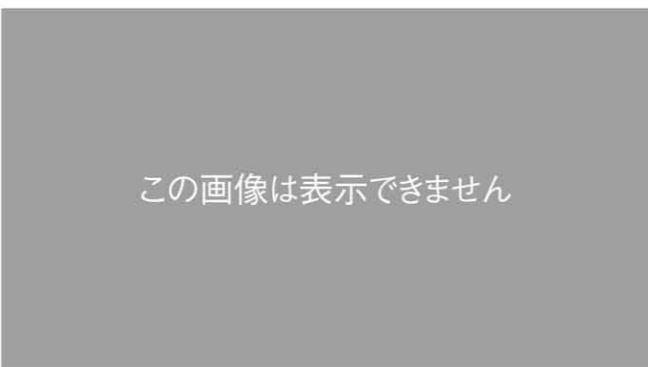
重要美術品 渡辺華山  
松崎慊堂像画稿その一(部分)  
文政9(1826)年 個人蔵  
松崎慊堂は佐藤一斎とともに江戸後期を代表する儒学者です。華山に自分の肖像画を依頼したことがきっかけとなり、師弟関係になりました。



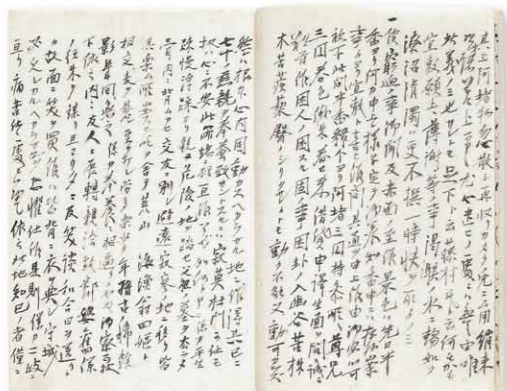
# 華山の最期

## ◆田原での蟄居生活

蟄居を言い渡された華山は天保11(1840)年1月に田原に到着し、2月よりかつては大蔵永常が住んでいた池ノ原の屋敷で家族とともに暮らし始めました。牢屋で患っていた病気も田原藩の藩医の鈴木春山が治療を行ったおかげで回復し、7月頃より絵を少しずつ描くようになりました。



重要美術品 渡辺華山 異魚図 天保11(1840)年 個人蔵  
鈴木春山が持ってきた魚(ツバメウオの幼魚)を写生した作品です。名前が分からない田原の南側の海でとれた魚であって、この魚の味は甘く普通で毒はないという話を聞いた事などが書かれています。

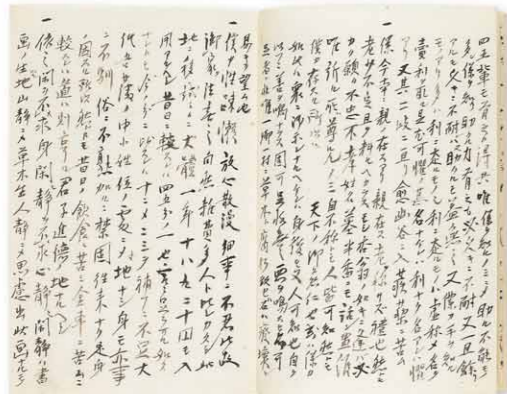


栃木県指定文化財 渡辺華山 翎毛虫魚冊(部分) 天保11(1840)年に描かれた部分 草雲美術館蔵

蟄居中の華山が田原でみたものがスケッチされています。紹介しているページにはカマキリ、カエル、キノコやトリガイが写生されています。



重要文化財 渡辺華山 馬図(絵馬) 天保12(1841)年  
田原藩片浜村の7人が願主になり片浜観音堂に奉納する絵馬を華山に依頼して描いてもらったものです。



重要文化財 渡辺華山 絵事御返事 天保11(1840)年  
椿山へ絵の事に対し質問を受けたものの返事ですが、この中には生活が困窮しており大変ではあるが、華山自身があちこちに出かけて領民と親交し、隣家の老婆や昔の使用人とも往來を図り、一日中談笑して仲良く過ごすように努めている等、華山の池ノ原での生活についても書かれています。

## ◆自刃

一家の生活は藩からのわずかな手当や、華山の母や妻が内職をしても、苦しく、貧しいものでした。そのため、華山の絵の弟子であった福田半香と平井顕斎が、華山一家の生活を少しでも助けるため華山の絵を売り、その金を華山の元に送りました。しかしながら、こうした行いが「蟄居中の身であるのに不謹慎である」という噂が華山の周辺で立ち、華山は藩主に迷惑がかからないようにと、天保12(1841)年10月11日、自刃しました。



市指定文化財 椿椿山 福田半香像稿 嘉永4(1851)年

福田半香は華山の絵を売ったことで、華山の自刃の原因になってしまい大変後悔をしました。半香は自分が亡くなった後、地下で華山に謝るため、渡辺家の菩提寺である小石川の善雄寺に埋葬される事を望みました。

重要美術品 渡辺華山 黄梁一炊図 天保12(1841)年 個人蔵

華山が最後に描いた絵として伝わっている作品です。題材とした「黄梁一炊の夢(別名邯鄲の夢)」は中国の有名な故事で人生のはかなさの例えに用いられます。また、この作品は夏目漱石の小説「こころ」では登場人物が自殺する前の心境が、華山が死の直前にこの作品を描いたことと対比されています。



不忠不孝渡邊登  
罪人石碑相成さるべし因自書

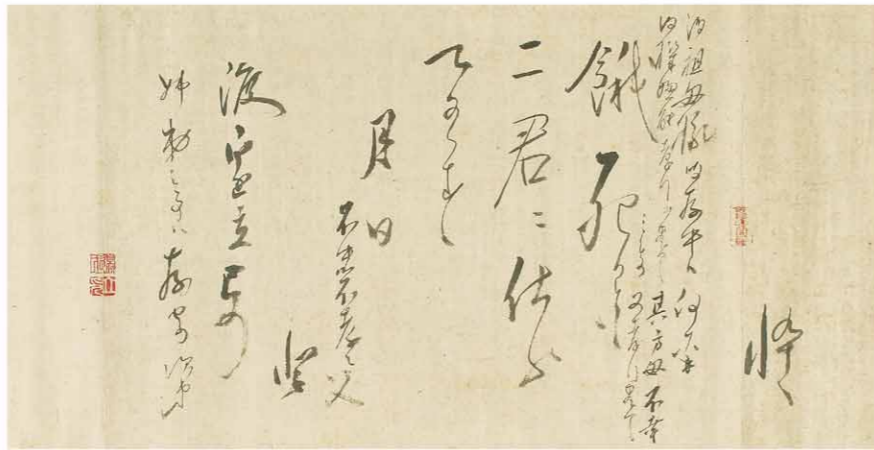
重要文化財 渡邊華山  
自筆墓表(不忠不孝渡邊登)  
天保12(1841)年

華山が自ら書いた墓表です。「罪人は石碑を立てられないので、自書を墓表とする」といった内容が画面左側に書かれています。



重要文化財 自決脇差 文政年間

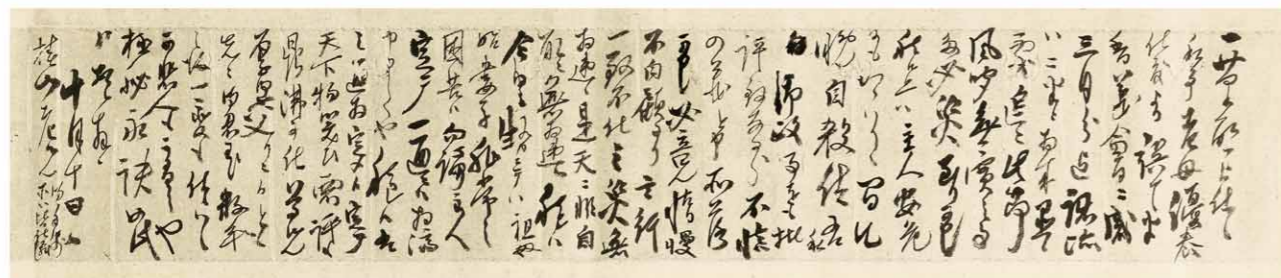
華山が実際に自刃に使用した脇差です。播磨の国(現在の兵庫県南部)の長船系の刀工である裕國作で、知人の明石藩士より華山に贈られたものです。



重要文化財 渡邊華山 立宛遺書  
天保12(1841)年

華山が長男立に宛てた遺書です。内容は「祖母が存命中は機嫌よく孝行しなさい。母は不幸な人なのでやはり孝行しなさい。飢え死にするようなことになっても二君に仕えないように。姉弟の事はまかせます」といったものでした。華山の武士としての忠孝の精神がよく示された遺書です。

御祖母様御存中は何卒  
御機嫌能孝行を尽べし其方母不幸  
之もの又孝行尽べし  
餓死るとも  
二君に仕ふべからず  
不忠不孝之父  
登  
梓へ  
渡辺立どの  
姉弟之事は存寄次第



一筆啓上仕候。  
私事老母優養  
仕度より、誤て半  
香義会二感、  
三月分迄認、跡  
ハ二半二相成置候  
処、追々此節  
風聞無実之事  
多、必災至り可申候。  
然ル上ハ主人安危  
にもか、ハリ候間、今  
晩自殺仕候。右私  
御政事をも批  
評致ながら、不慎  
の義と申所落  
可申候。必覚憎慢  
不自顧より、言行  
一致不仕之災無  
相違候。是天二非、自  
取二無相違候。然ハ  
今日之勢ニテハ、祖母  
始妻子非常之  
困苦ハ勿論、主人  
定テ一通二ハ相濟  
申まじくや。然レバ右  
之通相定メ候。定テ  
天下物笑ひ悪評も  
鼎沸可仕、尊兄  
厚御交リニ候とも、  
先々御忍可被下候。数年  
之後一変も仕候ハ、  
可悲人も可有之や。  
極秘永訣如此  
候。頓首拜具  
十月十日、  
椿山老兄 御手紙等  
八皆仕舞申候。

重要文化財 渡邊華山 椿山宛遺書 天保12(1841)年

華山が一番信頼していた弟子である椿椿山に宛てた遺書です。内容は、自刃する理由の後、その原因は罪人の身でありながら身を慎まなかった自分の行動のせいである事や「いつか世の中が変われば、自分(華山)の死を悲しむ人もいるでしょうか」といった世を憐む、華山の気持ちがかかれています。

# 画家としての華山

華山は、平山文鏡や白川芝山、金子金陵、谷文晁らから絵を学びました。華山の絵の評判は23歳頃には江戸の人々の間で知られるようになっていました。この頃には谷文晁を師とし、文晁の画塾で沈南蘋などの明清の中国画家の絵を模写し、絵の腕を磨いていました。

華山が絵を描くうえで一番大切にしていたのは、作品の対象を生命観あふれるように描くことでした。また写生を基本として、写生を行わない概念だけの作画は「空疎の学」として非難しています。華山の絵の特徴は鋭い線や品格があることです。

華山は花鳥画、山水画、俳画など様々な絵を描きましたが、特に肖像画を得意とし、西洋の陰影法を研究し、作画に取り入れています。華山の描いた肖像画について、友人の曲亭馬琴は「華山の肖像画はモデルとよく似ており、肖像画を描いて欲しいという人が多かった」と日記に書いています。



渡邊華山 亀台金母図 文化8(1811)年

中国の呉の画家と思われる鄭鳴世が描いた絵を19歳の華山が写したものです。絵が痛んでしまっていて欠けている部分までもあるがまますを写し描いています。細部まで写すことによって、絵の技術を自分のものにしようとした。



この画像は表示  
できません

重要美術品  
渡邊華山  
佐藤一斎像稿  
第二  
文政4(1821)年ごろ  
個人蔵

Image : TNM Image Archives

重要文化財 渡邊華山 佐藤一斎像  
文政4(1821)年 東京国立博物館蔵



重要文化財  
 渡辺華山 せんざんばんすい  
 千山万水図  
 天保12(1841)年

華山の塾居中の作品です。画題の「千山万水」は広大な景色が一望できる美しい風景という意味で、通常の山水画よりも広い範囲が画面に収まっています。絵の色彩は淡く、それでいて明るい印象を受けます。落款に「快風」とあり、清々しさを感じる作品です。



物売図



寄席図



寺子屋図



大名行列図

重要文化財 渡辺華山 いっそうりやくたい  
 一掃百態図(部分)  
 文政元(1818)年

26歳の時に描いた作品です。鎌倉時代から江戸時代中期くらいまでの風俗画を写し、その後からは華山が見た江戸の人々の様子が描かれています。「寺子屋図」は江戸時代の寺子屋の様子として学校の教科書などに掲載されています。



重要文化財 渡辺華山 孔子像 天保9(1838)年

画面右には三宅友信(12代目田原藩主の父親)が描いたとありますが、実際は華山が描いています。この絵は藩主や藩士が礼拝するため、遠慮した華山は、自身ではなく友信が描いたという事になっています。



巴洲先生渡邊君小照



重要美術品 渡辺華山 立原翠軒像稿  
文政6(1823)年

立原翠軒は華山の友人で、水戸藩士立原杏所の父で、彰考館総裁であり、「大日本史」の編纂を行った儒学者です。

重要文化財 渡辺華山 渡辺巴洲像画稿  
文政7(1824)年

華山の父親である定通(巴洲)を描いた作品です。父が亡くなった時、華山が涙ながらに筆をとって描いたとされています。



重要美術品 客坐掌記(部分) 天保3(1832)年

華山の手控え帳です。能や狂言の一場面を描いたものが多く、琴を弾く人や鳥の模写なども描かれています。また、洋画の挿絵と思われる西洋人物画や動物の頭蓋骨も写されています。田原市博物館は華山の手控え帳として他にも、文政5(1822)年「壬午図稿」、文政6(1823)年「癸未画稿」、文政7(1824)年「脱壁」、文政8(1825)年「脱壁」、文政9年(1826)「萬目縮写」、文政9(1826)年「客坐縮寫」、天保9(1838)年「客坐掌記」、天保年間「客坐掌記」(重要美術品)を所蔵しています。

この画像は表示できません

国宝  
渡辺華山 鷹見泉石像  
天保8(1837)年  
東京国立博物館蔵

華山の肖像画の最高傑作です。鷹見泉石は古河藩(茨城県)の家老で華山とは親しい間柄でした。顔は極力線を描かないようにし、西洋陰影表現を取り入れ、服などは線を使うなど日本元来の描き方で表現されています。東洋絵画に西洋絵画を取り入れる事に成功し、人物の性格まで描かれていることが高く評価され、国宝に指定されています。

Image : TNM Image Archives

この画像は  
表示できません

重要文化財 **渡辺華山** いちかわべいあん  
**市河米庵像**  
天保8(1837)年  
京都国立博物館蔵

この画像は表示できません

重要文化財 **渡辺華山** いちかわべいあん  
**市河米庵像稿**  
天保年間 京都国立博物館蔵

市河米庵は門弟の数が5000人もいたといわれる当時一流の書家でした。米庵が書いた賛には、「60歳となり、蒼黒くなった自分の顔に驚き、髪の毛や髭が白くなった自分と向き合う」などと書かれています。正面を向いて描かれている肖像画で、顔を色の濃淡で表現、立体感を表しています。鷹見泉石像同様に米庵の顔をよく観察して描いています。

この画像は  
表示できません

画像提供:東京国立博物館  
Image : TNM Image Archives

重要美術品 **渡辺華山** じゅうゆう そうしやく  
**十友双雀図(名花十友図)**  
文政9(1826)年 個人蔵

若い華山が描いた花鳥画の代表作です。十友とは梅、梔子、菊、蓮、芍薬、海棠、木犀、沈丁花、茉莉、薔薇のことをいいます。

この画像は  
表示できません

**渡辺華山** にゅうこう  
**乳狗図**  
天保12(1841)年 黒川古文化研究所蔵

母犬と乳を吸おうとしている子犬を描いています。後ろの穴のあいている石は太湖石といって、中国では観賞用として親しまれていました。

重要文化財 **渡辺華山** げいぎ  
**芸妓図**  
天保9(1838)年 静嘉堂文庫美術館蔵

華山と親しくしていた品川宿のお竹という芸者を描いたと伝わっています。左に書かれた自題は華山が女性を愛でる事について語っており、「雨の後の蓮のつぼみをみるようであって、私はこのような女性を好んでいるが弟子の平井顕斎はどうだろうか」という内容が書かれています。最後に「戯画」と書いており、他の華山の肖像画とは違い柔らかな雰囲気漂う作品です。

この画像は  
表示できません

静嘉堂文庫美術館イメージアーカイブ  
DNPartcom

この画像は  
表示できません

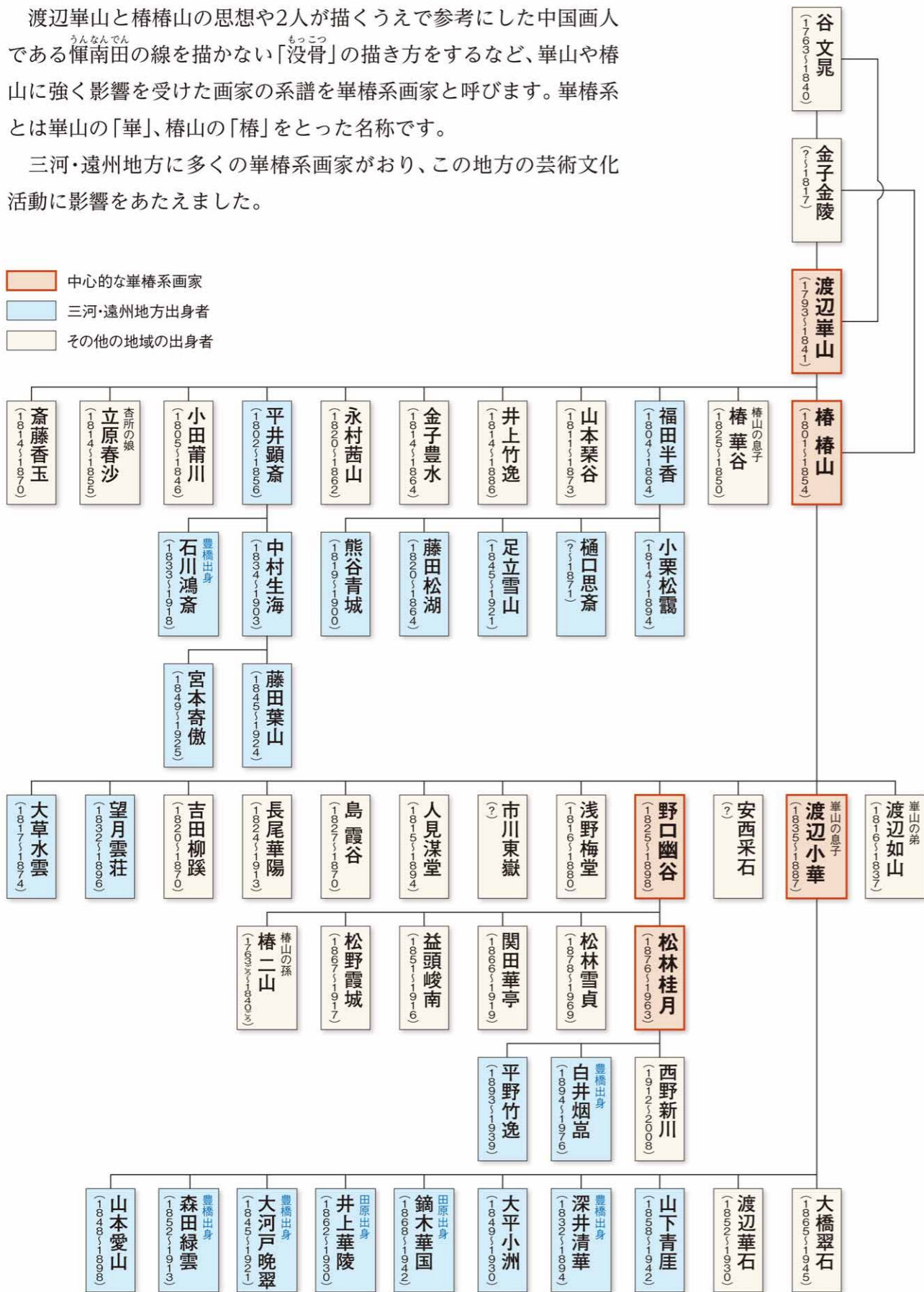
重要文化財 **渡辺華山** うこうこうもん  
**于公高門図**  
天保12(1841)年 福田美術館蔵

中国の故事を題材としています。于公は中国の裁判官で、公平な裁きで有名でした。彼は家の門を再建するときに、自ら積んだ徳により、子孫は出世して立派な車に乗れるようになるだろうからと、大きな門を作らせたといわれています。この作品は華山の蟄居中に描かれ、蚕社の獄で捕まった際に公正な対応をした与力の中島嘉右衛門に贈られたものと伝わっています。

渡辺華山と椿椿山の思想や2人が描くうえで参考にした中国画家である恽南田の線を描かない「没骨」の描き方をするなど、華山や椿山に強く影響を受けた画家の系譜を華椿系画家と呼びます。華椿系とは華山の「華」、椿山の「椿」をとった名称です。

三河・遠州地方に多くの華椿系画家がおり、この地方の芸術文化活動に影響をあたえました。

- 中心の華椿系画家
- 三河・遠州地方出身者
- その他の地域の出身者



## 華山の人物像のうつりかわり

### ◆明治時代：赦免と悲劇の憂国の志士

明治元(1868)年、華山の罪は許され、城宝寺に墓が建立されました。明治17(1884)年に福沢諭吉の門人の藤田茂吉は「文明東漸史」で、華山と長英たちを時代の先駆者として描き、近代日本の夜明け前の犠牲となった悲劇の憂国の志士である華山というイメージが知識層に広がりました。明治19(1886)年には二人を主役にした「夢物語盧生容画」が京橋新富座で上演され、演劇を通じ大衆にまで広がりました。明治24(1891)年、田原城跡に没後50年顕徳碑が建立され、正四位が授けられました。



藤田茂吉 文明東漸史

### ◆戦前：忠孝道德の手本と顕彰活動の活発化

田原中部尋常小学校長の伊奈森太郎から始まった華山の顕彰は、明治43(1910)年に全国的な会員組織の華山会の設立となりました。この会の活動で池ノ原幽居跡の土地購入、記念碑の建立、展覧会の開催、華山の著作を集めた『華山全集』が発刊されました。明治43年からの国定修身教科書では、「孝行」「兄妹」「勉強」「規律」の4徳目の模範的な人物として華山が紹介されました。



伊奈森太郎



『家庭と学校』84号 明治44(1911)年

伊奈は華山を郷土学習の教材とし「忠孝道德」のイメージを田原に広め、大正4(1915)年に『偉人渡辺華山』を出版し、日本の開国の先駆者、郷土の偉人として華山は広く町民にも浸透しました。

しかし、昭和となり、戦争が近づくにつれて、華山は忠孝道德の人だけではなく、忠義に厚く善良な国民の模範として、国家への忠義とすりかえられた時期もありました。



『孝行』修身の教科書 昭和4(1929)年

### ◆戦後：新しい華山像へ

昭和40(1965)年に小澤耕一は史料を丹念に調べ華山の一生を飾ることなく記した『華山渡辺登』を著し、没後の華山を巡る社会の動きも記録しました。これを機に佐藤昌介の洋学研究をはじめとし、日本史の中の華山研究が飛躍的に進みました。昭和30年、華山の遺品は「渡辺華山関係資料」として重要文化財に指定されます(昭和32年にも追加)。

その後、杉浦明平が「小説渡辺華山」(昭和54(1979)年)で生々しい人間味あふれた華山像を描き、芳賀徹の『渡辺華山 優しい旅人』



杉浦明平 小説渡辺華山 昭和54(1979)年

(昭和49(1974)年)で、開国の先駆者でもなく忠孝道徳の人でもなく、感受性豊かで心の優しい、親愛の情を持つ新たな華山像が広がりました。

美術研究では、華山の西洋知識による近代的な絵画表現から、作品は重要文化財・国宝に指定されています。しかし華山の作品は、公の意識の強い江戸時代に私的な自己表現という近代的な思想を先駆け表現したところに彼の素晴らしさがあります。

童門冬二は小藩三河田原藩のサラリーマン武士の苦勞を現在の社会に照らしあわせ、日本文学者ドナルド・キーン(元田原市博物館名誉館長)は我々日本人が気づかない華山の一面を指摘するなど、いまだその魅力につきない人物として多くの文筆家、研究者が著作、研究成果を発表しています。



芳賀徹 渡辺華山 優しい旅人 昭和49(1974)年  
ドナルド・キーン 渡辺華山 平成9(1997)年



板橋の別れ 昭和55(1980)年頃

### ◆これからの華山

華山は歴史上の人物、画家として明治時代以降に様々な分野の研究対象となり、多くの著作、文献が今日まで著され人々の関心を集めました。今も田原中部小学校では、伊奈森太郎の顕彰活動を引き継いだ歌劇「立志」、「板橋の別れ」が学会会で演じられています。

しかし、顕彰だけにとどまらず、故郷の偉人の生き方をつうじて、人づくりに生かしていくことが大切です。

## 華山ゆかりの地

### ◆池ノ原公園

池ノ原公園には渡辺華山が晩年をくらしした幽居跡地があります。そこは農学者大蔵永常の旧宅で「御産物屋敷」と呼ばれていました。

公園の整備は、明治42(1909)年に始まり、屋敷跡の公園化、石碑の建立、昭和30(1955)年には幽居屋敷が全国の人に呼びかけ、寄付によって復興されました。屋敷の横には、華山直系の画家松林桂月題字の石碑「華山先生幽囚之家」があります。そして平成7(1995)年、新たに散策路、四阿、華山の生涯を刻したオブジェなどが整備され、新しい池ノ原公園となり、華山の屋敷地のほぼ全域が公園化されました。周囲の路地には武家屋敷の土手や椿の生け垣がみられ、往時の様子を留めています。



①池ノ原公園



③公園石碑 東郷平八郎「華山先生玉砕の趾」



②渡辺華山銅像

大正3(1914)年に錦織剛清によって建立されましたが、昭和18(1943)年戦争の為供出、現在の像は、小田寛一作、題字は松林桂月により、昭和30(1955)年に再建されました。

### ◆華山神社・華山会館

華山神社は、昭和21(1946)年に建立されましたが、昭和34(1959)年の伊勢湾台風により倒れ、昭和41(1966)年に再建されました。毎年10月11日は華山の命日にあたり、大祭が開催されます。

華山会館は昭和42(1967)年、社会教育の拠点施設として建設され、華山関係資料を展示する田原博物館がありました。現在は市内のレセプションホールとしても利用されています。



④華山神社全景

鳥居の扁額は当時の愛知県知事桑原幹根。



⑤白井烟畠画伯筆塚

豊橋出身で、華山の画系を受け継ぎ、華山神社再建に尽力しました。



⑥「和蘭陀風説書」石碑



⑦「八勿の訓戒」石碑

### ◆田原城跡周辺



⑧華山文庫

華山資料の収蔵のため、寄付により昭和9(1934)年に二の丸櫓跡に建てられました。設計は建築家永瀬狂三といわれています。昭和33年文化財収蔵庫建設(現二の丸櫓)のため現在の位置に移動しました。



⑩華山頌徳碑

明治24(1891)年、田原城三の丸に建立されました。没後50年を記念し川田剛の文、三條実美の書によるものです。三の丸には華山が藩士として最も期待した村上定平の碑もあります。



⑨巴江神社

華山が三宅家の血縁にこたわった三宅家の遠祖とされる児島高德と藩祖三宅康貞を祀った神社で、昭和8(1933)年までは博物館がある二の丸にあり、二の丸社と呼ばれていました。



⑪藩校成章館跡

華山は、天保9(1838)年、儒学者伊藤鳳山(1806~1870)を招くなど藩士の学問の振興を進めました。また成章館の儀式には華山筆の孔子像をはじめとする孔子の弟子10人の像が飾られました。



⑫華山立志の像 (田原中部小学校)

華山立志のエピソードの銅像。元型は田原市博物館ロビーに展示してあります。華山を郷土学習に活かした田原中部小学校のシンボリックな存在です。





## 華山をもっと知るためのオススの書籍

### ◆華山を極めたい

佐藤昌介校注 1978年『華山・長英論集』岩波書店  
小澤耕一編 1982年『華山書簡集』国書刊行会  
小澤耕一編 1991年『華山年譜』(財)華山会  
田中康弘・別所興一・吉川利明・渡辺次郎編 1999年『渡辺華山集』(全7巻)日本図書センター  
別所興一訳注 2016年『渡辺華山書簡集』平凡社

### ◆華山の人間像を知る入門書

森 銃三 1941年『渡辺華山』創元社  
小澤耕一 1975年『人物編 渡辺華山』『田原町史 中巻』田原町教育委員会  
佐藤昌介 1986年『渡辺華山』(人物叢書)吉川弘文館  
小澤耕一 1994年『華山渡辺登』(増補版)(財)華山会(初版1965年)  
芳賀 徹 2003年『渡辺華山—優しい旅人』(増補版 朝日選書)(1986年朝日新聞社)  
別所興一 2004年『渡辺華山—郷国と世界へのまなざし』愛知大学総合郷土研究所ブックレット あるむ社  
童門冬二 2005年『異才の改革者 渡辺華山』PHP研究所  
ドナルド・キーン・角地幸男訳 2007年『渡辺華山』新潮社  
小澤耕一・森下勲・河辺和一・中神照二・松本義弘 2014年『少年物語渡辺華山』(公財)華山会 再版(初版1968年田原町教育委員会)  
(公財)華山会 2021年『偉人物語 渡辺華山』(公財)華山会

### ◆華山の人間像を別の視点で見たい

藤森成吉 1935年『小説渡辺華山』改造社(再版1952年角川書店)  
石川 淳 1941年『渡辺華山』三笠書房(再版1985年筑摩書房ほか)  
杉浦明平 1971年『小説渡辺華山 上・下』朝日新聞社(文庫版1982年朝日新聞社)

### ◆華山の作品を鑑賞したい

鈴木栄之亮編 1941年『渡辺華山先生錦心図譜』東京美術青年会(覆刻 国書刊行会1977年)  
菅沼貞三・杉浦明平編 1975年『文人画粹編19 渡辺華山』中央公論社  
鈴木進・尾崎正明編 1977年『渡辺華山 日本美術絵画全集第24集』集英社  
菅沼貞三編 1979年『日本の美術162 渡辺華山』至文堂  
常葉美術館編 1991年『定本 渡辺華山』(全3巻)郷土出版社  
日比野秀男 1997年『新潮日本美術文庫20 渡辺華山』新潮社

### ◆複製作品を楽しみたい

鈴木進編 1975・1976年『覆刻渡辺華山真景写生帖集成 第一集・第二集・第三集』平凡社教育産業センター  
(第一集四州真景、第二集文政四年辛巳画稿・文政八年客坐縮寫・天保六年客坐録・天保八年客坐掌記・両国橋  
図稿、第三集天保一年華山先生随筆・天保一年客坐録・天保二年客坐録・天保九年客坐掌記・獄廷素描・退役願  
書稿・椿山宛遺書・長男立宛遺書)  
(公財)華山会 1995年『一掃百態』(1964年、田原町華山会、1981、1983年田原町教育委員会)

### ◆華山の絵画思想を学びたい

菅沼貞三 1947年『華山の研究』座右宝刊行会(再版1969年木耳社)  
吉沢 忠 1956年『日本美術史叢書7 渡辺華山』東京大学出版会  
日比野秀男 1994年『渡辺華山—秘められた海防思想』ぺりかん社

### ◆華山の情報に定期的に触れたい

『華山会報』(1998年～)(公財)華山会 年2回発行 華山会HPでもご覧になれます。(http://www.kazankai.jp/magazine.php)

- 本パンフレットに所蔵等明記のないものは田原市博物館蔵です。
- 渡辺華山紙芝居は昭和初期頃、愛知県内政部振興課より作成されたものを掲載しています。
- 漢字の書体については、原則として常用漢字を用いました。

田原の文化財ガイドⅥ  
**渡辺華山**

発行—2021(令和3)年3月  
2023(令和5)年3月 デジタル版  
編集・発行—田原市教育委員会(田原市博物館)  
〒441-3421 愛知県田原市田原町巴江11番地1  
制作—株式会社シンプリ



博物館HP